



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦
副会長 金子 功
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 金子 功

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 奥菌 一紀

<今月の聖句>

大江 浩

「なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです」
(コリントの信徒への手紙Ⅱ 第12章10節)

(新型コロナウイルスのパンデミックによる命の脅威にさらされて、「わたし」である一人ひとりが恐怖と不安で震え、他者と距離を置き、Stay Homeによって孤立したり、心が「弱く」折れそうになっています。しかし「わたしたち」は繋がる(新しい繋がり方の工夫は要りますが)ことで、共に生き「強く」なれると信じたいという想いです。)

今月のひとこと

「コロナ戦争」

松島 美一



要介護の妻とサラリーマンの娘と暮らし、平日の外出がままならず、ワイズの会合も欠席がちでした。ところがコロナウイルス禍の発生で、娘が在宅勤務と称し平日も家にいるようになりました。もっとも昼間は自室に籠もり、居ないはずの上司、同僚との会話の音が漏れてきます。私が外出できる状態になってもワイズの会合の方が休会となり、世間の目とかの問題もあり、“Stay Home”を強いられて

います。

教会の礼拝も出席者少なく、互いに席を離して座っています。讃美の歌声も空気に響きます。礼拝後もマスク姿で会話少なく、皆そそくさと家路に就いています。なんとなく戦時中の空襲警報、警戒警報下を連想させます。日米戦争中「女一子供」は疎開したのですが、コロナ相手では疎開もできず、自宅で息をひそめるだけです。戦争指導者、政治家も鬼畜米英相手のときは元気軒昂でしたが、コロナ相手では白旗挙げんばかりの風情。ひたすら自粛の声のみ響いています。

神様どうか早くコロナを退治してください。

<2020年4月例会実績 中止>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 0名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 0名	0% (メーキャップ名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<5月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中止
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	持ち回り開催
30	土	17:00	横浜Y会員総会	書面決議開催

第3回評議会報告

古田 和彦

1. 開催日時・場所・方法

本来は4月18日(土)に横浜中央YMCAにて開催の予定であったが、新型コロナウイルスのため、メール及びフェイスブックを利用して開催した。

- 1) 議案提出・報告書提出: 4月11日(金)
- 2) 議案郵送: 4月13日(日)
- 3) 議案審議: 4月14日(月)～17日(金)
- 4) 採決: 4月18日(土)～20日(月)
- 5) 結果布告: 4月25日(土)

2. 議案とその採決結果

- 1) 第1号議案「第1回評議会(2019年7月27日)、第2回評議会(2019年11月30日)議事録の承認について」は、条件付承認となった。記録に記載漏れや、事実と異なる表現があり、その訂正を条件に承認された。→記録は修正済みで配布された。
- 2) 第2号議案「湘南・沖縄部 部長選出方法について」は、否決された。内容は、概略、立候補者・推薦者がいない場合、各クラブの輪番制にし、そのクラブの責任において部長候補を提案する、また、輪番制については設立の古い順からとする、との提案であった。しかし、事前の役員会では、輪番制について大方の異論がなかったものの、具体的順番についての合意はなかったとの認識が全体の意見であり否決された。

上記から次期の次期部長が未定のままであり、早急の対応が求められている。

「入会のご挨拶」

佐竹 博



横浜ワイズメンズクラブの皆様、いつも横浜中央YMCAはじめ横浜YMCAをお支えいただきありがとうございます。日ごろからのご奉仕、感謝申し上げます。3月よりコロナウイルス感染防止のために、YMCAも多くのプログラムを休止・中止の対処をしたため、休館中にはワイズメンズクラブはじめ皆様の集会や、活動場所への制約などご面倒をおかけしておりますこと、お詫び申し上げます。

今年度より横浜YMCA総主事を拝命いたしました、どうぞよろしくお願いいたします。私は、横浜クラブへの2回目の入会となります。前回の入会時は日本YMCA同盟に出向していた2004年から2006年度でした。日本YMCA同盟では東日本区の連絡主事として、主に東日本区役員会の皆様とご一緒させていただきました。連絡主事としてどこかのクラブに在籍する必要があり、出向元である横浜YMCAで活動される横浜クラブに入会いたしました。

その間に高田一彦さんが東日本区理事となり、横浜クラブの皆さん中心に理事キャビネットとして支えておられ、私も同盟連絡主事として、メンバーとして一生懸命サポートさせていただいたこと懐かしく思い出されます。

同盟からの帰任後も横浜クラブの皆様とはよくお会いする

機会に恵まれました。「かっぼうぎ」の前で何度もお声掛けしていただきましたが、ほとんどお付き合いできず失礼いたしました。今後はクラブメンバーとなりますので、皆様との交わりの時間を取り返してまいりたいと思います。

現在、横浜クラブからは日本語スピーチコンテストはじめ、ウエルカムフェスタ、チャリティーラン、幼児サッカーイベントなど多くの活動に共催、協働、ご支援をいただいております。横浜クラブはYMCAプログラムの強力なサポーターです。日本で3番目の、そして東日本区では最初のワイズメンズクラブであり、本年90周年を迎えられる横浜クラブの皆様には、これからも横浜YMCAを力強くお支えいただきますよう、よろしく願いいたします。

(佐竹さんの入会日は5月1日付です)

「離任・退会のご挨拶」

青木 一弘



台北YMCA出向帰任から中央YMCAに配属となって8年、横浜ワイズの皆様には大変お世話になりました。担当主事として至らぬ点多々ありましたが、皆様のサポートのおかげで有意義な時間を過ごすことができました。毎月の例会、上郷森の家での1泊研修、厩の食卓での納涼会、日本語スピーチコンテスト、ウエルカムフェスタでのバザー、チャリティーラン、忘年会・・・など、つい昨日の出来事のように頭の中に思い浮かんできます。YMCAにおいて貴重な経験を共にした横浜ワイズの方々との出会いと、多くのご支援・ご協力に感謝致します。本当にありがとうございました。

私は、4月から中央YMCAにおりますので、皆さんにお会いできる機会は、これからも多々あることと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「新型コロナウイルス - 政府批判に想う」

齋藤 宙也



新型コロナウイルスの影響で次々と会合が消え、ついには裁判の期日や相談業務も消えた。しかし、本業の相談は少なくなく、起案もまだまだあるという感じであった。そのため、ほとんど事務所にいるにもかかわらずやることが終わらず、忙しい状態が続いてきた。4月11日時点(註:寄稿の時点)で、ようやくひと段落したという感じである。

新型コロナウイルスをめぐる政府の対応については、種々の議論がある。全国一斉休校の要請、緊急事態宣言のタイミング、給付や補償の有無や額・・・いつになく国民一人一人の生活にかかわるテーマであり、様々な議論がなされてしかるべきである。ここで、何より問題なのは、表向きは政権の外部にいて、「非常時だから政府批判するな。」と唱道する著名人である。

日頃から右派系の言動をしている著名人はともかく、なまじファンが多く、日頃政治について意識していない人にも影響力をもたらす人物が政権批判を封じ込めることの方が、国

家権力が直接政権批判を封じ込めるよりも、ある意味では言論の自由に対する委縮効果は高い。

医療現場が本当にひっ迫しているのは事実であろう。また、医療現場の皆さんに敬意を表するのも当然である。なるべく医療関係者の負担にならないようにすべきであることも理解できる。しかし、それがなぜ、政府を批判してはいけないということに結び付くのか、その論理的関連性は分からない。

百歩譲って、国会前で密集してデモでもしているというのであれば、「そんなやり方で批判している場合じゃない」という主張はあり得る。しかし、平穏に政府批判をすることが、感染のリスクを高めることには全くならない。

私は、感染症の専門家ではないので、ダイヤモンド・プリンセスの乗客乗員に対する対応や、一斉休校の中身としての（プロセスは論外だが）正当性や、PCR検査をもっと増やす余地があるかどうかといった議論について、明確に論評することはできない。しかし、議論すること、批判すること自体を封じ込めることは絶対に許してはいけない。ほんの約80年前、議論すること、批判すること自体を封じ込めてきた社会がどのような末路を迎えたか、本ブリテンの読者の多くは身をもって経験してこられたはずである。

政府批判に対抗してくる勢力は、批判の内容が的外れだと反論することはほとんどなく、平時であれば「政治的中立だから」、平時でなければ「非常時だから」と称して批判すること自体を封じることが顕著な特徴である。内容への反論はできないことが多いようなので、必要があれば臆せず声を上げ続けるのが正解であると言える。

「新型コロナと我が家」

大高 治



昨年11月武漢での新型コロナウイルスの発生は、12月8日SNSで外部に漏れましたが、多くの国々では対岸の火事との感がありました。翌1月23日の春節からの武漢閉鎖の直前に5百万人が逃亡しました。ここから新型コロナは全中国に、そしてわずか3カ月で全世界に広がったのです。

2月16日横浜市長は不要不急の外出、営業自粛を要請しました。横浜クラブは3月26日の第二例会を最後に、会合を中止しました。また私の所属するボランティア団体では、初夏の一大行事「世界トライアスロン横浜大会」がキャンセルになり、シニアクラブの年度末、年度始めの重要な会合も中止になりました。グラウンド・ゴルフの練習や大会、5月中旬の1泊旅行も中止。補助金申請は郵送でした。前例のないことばかりです。一向に減る様子のない感染状況のニュースを見ながら、皆落ち着いて政府や地方行政の要請に積極的に応じようとしています。以下私の周りの出来事です。

● 家族のみの49日

弟の家では義母の通夜、葬儀が2月20日、21日に執り行われました。私と妹は車中マスクをつけて行きましたが、マスク姿の参列者は一人もおりませんでした。茨城県の感染者第1号は3月17日と遅かったからと思います。3月からの主要都市での外出自粛の要請を考慮、弟は3月早々に3月28日予定の49日の法要と納骨を近親者のみで行い、親戚や隣人

の参列辞退を決めました。

一方3月31日「某市での通夜、葬儀でクラスター」とのニュースが飛び込んで来ました。弟の「49日法事の参列者制限は英断」でした。

● ラオス、ワイズを繋ぐ

発展途上国の教育の普及に取り組むN G O、Plan International に席を置く姪（妹の娘）家族がラオスから3月28日急遽帰国することになりました。ラオスでもコロナの感染者が出始め、医療上の問題もあり職場から帰国を勧められたのです。姪にとっては長年の念願が叶い、理解ある夫と今年4月小学校入学の長男と共に、昨年12月初め、ピエンチャンに赴任したばかりだったのです。

姪の家族は外交官の子息の同行を依頼され、バンコック空港で11時間待ち、羽田着の最終特別便で帰国出来ました。戒厳令下のタイでは一番安全な空港内に留まったのです。この緊迫感、乗物は違うが終戦後の引き揚げを思い出します。羽田からは公共交通になるタクシーには乗れません。私の車をオファーしたが、「高齢者ドライブと感染予防の為」妹に拒否されました。姪たちは夫が運転するレンタカーで家にたどり着けました。

4月1日届いた横浜とつかクラブの4月号のブリテンに、京都パレスクラブの大野嘉宏様の特別寄稿がありました。在京都ラオス人民民主共和国の名誉領事をされており、加藤ワイズとは長年のお知り合いとのこと。ラオスでの中学校の建設を始めとして、京都市とピエンチャン市の親善交流に貢献され、小象4頭を京都に、中古のバス34台をピエンチャンに相互に寄贈する仲介の大役を果たされました。

姪を元気付けようと許可を得て寄稿文を送りました。

「ラオス及び京都に非常に大きな貢献をされていらっしゃる方なのですね。ラオスにゆかりのある方にはなかなか日本にはいらっしゃらないので大変嬉しいです。ピエンチャンの街で、バスも見かけます。日本の国旗がついており、見るたびに日本人として誇らしい気持ちになります。こちらの方が尽力されたとは知りませんでした。」と姪はその感動を大野様に伝えております。

コロナの感染が早く落ち着き、姪たちや私も加藤ワイズと共に大野様にお目にかかれる日を楽しみにしております。大野様からも「寄稿して良かった。これぞワイズの繋がり」とのコメントを頂きました。

姪の息子は2週間の自宅待機中に入学式がありました。校長先生の好意で校門から校庭の式を眺めたとのこと。だが、彼は恵まれています。ラオスのインターナショナルスクールに入学していました。オンライン授業が横浜でも受けられるのです。横浜の小学校1年生とインターナショナルスクールの1年生の同時進行ですが、横浜の小学校は休校。もし日本の小学校にもオンライン授業があったなら、彼はどのようなのだろうか。

● もう一人の姪NYにいつ行けるだろうか

兄の家には3月中に乳幼児を連れてNew Yorkに滞在中の夫のもとに赴任の予定だった姪がおります。NYは4月に入りコロナ感染の最悪の都市になりましたが、3月までの心配はアジア系に対する市民のいやがらせの懸念でした。そこで5月への延期を決めたのです。NYで買えない日本の食品は、かつてはサザエのつぼ焼きとフグと言われていました。だが、

Telework をしながらの買い物は品不足もあって難しくなってきたそうです。マスクやレトルト等々を送る頻度が増したと兄は言う。アメリカでは4月末から一部の閉鎖を解く方向と報じられていますが、5月に赴任することは出来るだろうか。

● 双子の高校新生、学校に何時行ける

息子家族は阪神地区に住んでいます。双子の兄弟は高校受験。感染状況上位の地区での受験はどうなるのだろうか。幸い、希望の公立高校に合格出来ました。しかしながら、入学式は行われず、「入学許可説明会」でした。その日以降2人は在宅学習に励んでいます。教師からのメールでの指導もあるようです。神戸市は昭和20年に何度も空襲を受けました。75年前の旧制の中学生は誰もが、まともな入学式や授業を受けられなかったはず。今87~8歳になる先輩は、食べ物をはじめ無い無いつくしの時代を乗り越えて平和日本、豊かな日本の建設に貢献しました。

日本は中国からのコロナ第1波を乗り越え、4月末現在欧米からの第2波と戦っています。休校は5月末まで続くでしょう。だがまだ第3波、第4波の襲来が予想されています。「今より悪くなることはない」と前向きに行動すれば、多くのことが Positive Spiral の中で解決出来るはず。君たちは2人力だ！」これを入学祝いの言葉としたいと思います。

第二例会報告

古田 和彦

日時/場所：4月15日～18日の間、メールによる持ち回りで開催

出席者（メール発信者）：伊藤、大高、金子、古賀、古田
協議・確認・検討事項

1. 行事予定

・予定が示されたが、新型コロナウイルスのため流動的。

2. 協議・報告事項

1) 5月の例会について

- ・4月同様、状況の改善はないと判断し、中止とする。
 - ・今後の活動のあり方については会員各位に意見を求める。
- 2) 佐竹博氏（横浜YMCA総主事）の入会を5月1日とすることとした。→一部・区に対する手続き完了済。

3) 4/18 予定の部評議会はメール・ファックス等での持ち回り開催となり、出席義務者は議案に対する賛否を4/20までに会長に伝え、会長がまとめて提出する。→提出済み

4) 5月ブリテン計画を承認した。なお、原案に加えて、持ち回りの4月第2例会報告も載せることとした。

5) 6月以降の例会について

- ・6月は、次年度計画について古賀次期会長からの提案待ち。
- ・7月は総会となる。
- ・依頼済の大江ワイズの卓話は、いったん白紙とし、環境が整い次第改めてお願いする。秋元美幸氏もそれに準じる。

6) 横浜クラブ90周年記念行事については、第2例会でひとつづつ詰めていくことにしているが、新型コロナの影響から現状通りでよいかどうか検討が必要である。仮に、規模を縮小する場合、会場変更などはいつまでに行ななければならないか確認する必要がある。

7) 9月1日（火）に予定していた日本語スピーチコンテスト

は中止する旨連絡を受けた。

8) 当クラブを今後どのように運営していくことが必要か、例会の持ち方、活動内容、特に、新しい会員を迎える方策について、会員各位の忌憚のない意見を求めることとした。



担当主事 奥蘭 一紀

緊急事態宣言により、横浜YMCAの諸事業のうち、健康教育事業、語学教育事業、専門学校事業、オルタナティブ事業は休止しております。一方、保育園事業、学童保育事業、高齢者事業、児童発達支援事業については継続して、開所しています。

事業休止を要請されたなかにも、それぞれの事業においては、会員の方や学生とのつながりを大切にするために、WEBを活用した取り組みが行われています。健康教育事業では、会員限定プログラムとしてZoomを利用したラジオ体操を始めました。直接の関わりが難しい中であっても、つながりを継続することを願い、はなれていてもつながっていることに気づいてもらえるプログラムになっています。

私の所属します専門学校においても、休止要請のなかにもありますが、レポートの提出など課題を課したり、外出自粛中の学生の健康状態を確認するためにMeetを利用してコミュニケーションを図る取り組みが継続されています。

また、日本YMCA同盟が主催します「共同の祈り」が開催されました。はなれていてもつながっているオンライン礼拝として、学校や活動に参加できないユースを支援、励ますことを目的としています。アジア・世界のYMCAでも祈りと連帯が呼びかけられており、私たちはポジティブネットのある社会の実現のために、共に祈り、活動を継続することの大切を確認できたのではないかと感じます。今後の予定は次の通りとなります。ご承知おき下さい。

5月22日（金）18:00～「世界のYMCA、そして女性」

6月12日（金）18:00～「会員・ワイズメンズクラブと共に」

（奥蘭さんの入会は前任の青木担当主事と交替した4月1日付です、自己紹介は6月号に掲載予定）

6月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
2	火	19:00	Y-Y s 協議会	中央Y
6			東日本区大会	帯広 中止
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
20	土	14:00	第4回部評議会	中央Y
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥蘭一紀にご連絡下さい。

メール okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080